



# M-Business Anywhere リリース・ノート

改訂 2007 年 6 月

## 著作権と商標

Copyright © 2007 iAnywhere Solutions, Inc. Portions copyright © 2007 Sybase, Inc. All rights reserved.

iAnywhere Solutions, Inc. は Sybase, Inc. の関連会社です。

iAnywhere は、(1) すべてのコピーにこの情報またはマニュアル内のその他の著作権と商標の表示を含める、(2) マニュアルの偽装表示をしない、(3) マニュアルに変更を加えないことが遵守されるかぎり、このマニュアルをご自身の情報収集、教育、その他の非営利の目的で使用することを許可します。このマニュアルまたはその一部を、iAnywhere の書面による事前の許可なく発行または配布することは禁じられています。

このマニュアルは、iAnywhere が何らかの行動を行う、または行わない責任を表明するものではありません。このマニュアルは、iAnywhere の判断で予告なく内容が変更される場合があります。iAnywhere との間に書面による合意がないかぎり、このマニュアルは「現状のまま」提供されるものであり、その使用または記載内容の誤りに対して iAnywhere は一切の責任を負いません。

iAnywhere®、Sybase®、<http://www.ianywhere.com/trademarks> に示す商標は Sybase, Inc. またはその関連会社の商標です。® は米国での登録商標を示します。

Java および Java 関連のすべての商標は、米国またはその他の国での Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

このマニュアルに記載されているその他の会社名と製品名は各社の商標である場合があります。

---

---

## 目次

最新のビルド .....	v
<b>M-Business Anywhere - リリース・ノート .....</b>	<b>1</b>
このリリースの新機能 .....	2
既知の問題 .....	3
以前のリリース .....	7
テクニカル・サポート、お問い合わせ先 .....	11

---

# 最新のビルド

このドキュメントでは、*readme.txt* ファイルやその他の公開ドキュメントで説明されていない、M-Business Anywhere バージョン 6.5 のアップデート内容について説明します。

## 注意

このドキュメントには、その他の M-Business Anywhere ドキュメントへのリンクが含まれています。それらのリンクを表示するには、[http://www.ianywhere.jp/developers/product\\_manuals/mbusiness\\_anywhere/](http://www.ianywhere.jp/developers/product_manuals/mbusiness_anywhere/) から「M-Business Anywhere - リリースノート」を開くか、またはその Web サイトから各 PDF ファイルを同じローカル・ディレクトリにダウンロードします。

このドキュメントでは、以下について説明します。

- ◆ M-Business Server ビルド 206 (Microsoft Windows 版)
- ◆ M-Business Server ビルド 207 (Linux 版)
- ◆ M-Business Server ビルド 209 (Solaris 版)
- ◆ M-Business Client ビルド 216

M-Business Anywhere バージョン 6.5 のコンポーネントと旧バージョンのコンポーネントとの互換性は、次のようになっています。

M-Business Server のバージョン	M-Business Client、バージョン 6.5	旧バージョンの M-Business Client
6.5	サポート	サポート
旧バージョン	サポートされていない	M-Business Server は、一般に M-Business Client の旧バージョンをすべてサポートする 例外：「既知の問題」3 ページの 1 番目の項目を参照

---

---

## 第 1 章

# M-Business Anywhere - リリース・ノート

## 目次

このリリースの新機能 .....	2
既知の問題 .....	3
以前のリリース .....	7
テクニカル・サポート、お問い合わせ先 .....	11

### はじめに

ここでは、*readme* ファイルと他の発行済みのマニュアルに記載されていない M-Business Anywhere、バージョン 6.5 の最新情報について説明します。

## このリリースの新機能

**M-Business Server データベースと LDAP の統合：** M-Business Server は、ユーザ名とパスワードの認証と管理で、NT ドメインに加えて、外部 LDAP ソースの使用をサポートできるようになりました。外部ユーザ認証でどちらを使用しても、既存のデータベースを使用して、ユーザ ID とパスワードを作成、管理できます。M-Business Anywhere データベースは、これらのユーザに関して M-Business 固有の情報のみを管理します。LDAP 統合を実装するには、NT ドメイン統合ライセンスを使用して M-Business Server をインストールし、2つの設定ファイルを手動で設定します。詳細な手順については、「[LDAP を使用した外部ユーザ認証の実装](#)」『[M-Business Anywhere 管理ガイド](#)』を参照してください。

**ワイヤレス接続のリカバリ可能同期：** ワイヤレスで同期しているユーザの接続が中断すると、M-Business Sync Server は接続の再確立と、中断した箇所からの同期の再開を自動的に試みます。ユーザ側の操作は必要ありません。

**Symbian デバイス用の M-Business Client のベータ・バージョン：** Symbian デバイス用の M-Business Client のベータ・バージョンがリリースされました。以下の URL からダウンロードできます。

[http://www.ianywhere.com/forms/downloads/m-business\\_anywhere/m-business\\_symbian\\_eval.html](http://www.ianywhere.com/forms/downloads/m-business_anywhere/m-business_symbian_eval.html)

### 注意

Symbian デバイスにクライアントをインストールするためには、この Symbian ベータを Windows デスクトップにダウンロードします。

**M-Business Client ホームページの [Forms]、[Servers]、[Add]、[Remove] ボタンが非表示になりました：** カスタマからのフィードバックに応じて、これらのボタンは M-Business Client ホームページにデフォルトで表示されなくなりました。必要に応じて表示できます。「[M-Business Client ホームページでの \[Forms\]、\[Servers\]、\[Add\]、\[Remove\] リンクの有効化](#)」『[M-Business Anywhere 管理ガイド](#)』を参照してください。

**M-Business Anywhere リリースに対応する PODS バージョン番号：** 互換性の問題を簡単にトラブルシューティングできるように、M-Business Server 6.5 に付属するすべてのプラットフォーム固有のコンパイル済みコード・モジュール、または PODS には、以前のリリースとは異なるバージョン番号が付けられています。

## 既知の問題

**[27595] 警告：** M-Business Server バージョン 6.5 に付属するプラットフォーム固有のコンパイル済みコード・モジュール、または PODS は、M-Business Client バージョン 6.2 以前では動作しません。このような PODS には、Date/Time Picker (mimedtpicker)、List Viewer (mimelist)、M-Business XML POD (dbpod\_quad) があります。アプリケーション内でこれらの PODS を使用する場合は、次の互換性の要件に注意し、最初に M-Business Client バージョン 6.5 にアップグレードする場合を除いて、M-Business Client バージョン 6.2 以前のユーザが M-Business Server バージョン 6.5 の PODS を間違えて取得しないようにしてください。

M-Business Client バージョン	必要な M-Business PODS バージョン
6.2 以前	2.0.x
6.5	2.1.x

M-Business Server バージョン 6.5 には、PODS の 2.1.x バージョンがバンドルされています。M-Business アプリケーションが M-Business Client バージョン 6.5 にのみ配備される場合は、「[M-Business Server のアップグレードとインストール](#)」『[M-Business Anywhere 管理ガイド](#)』の指示に従ってください。

アプリケーションが M-Business Client の 6.5 と以前のバージョンの両方に配備される場合は、AG\_CLIENTVERSION マクロを使用して、各バージョンの M-Business Client に対して正しいバージョンの PODS を提供します。Palm OS が動作しているデバイスや Microsoft OS が動作しているその他のデバイスをサポートする場合は、ロジック内の AG\_DEVICEOS マクロを使用して、プラットフォームに正しいバージョンの PODS を提供します。URL マクロの詳細については、「[サーバ URL マクロを使用したコンテンツのカスタマイズ](#)」『[M-Business Anywhere アプリケーション・デベロッパ・ガイド](#)』を参照してください。

アプリケーションがカスタム PODS を使用している場合は、PODS が getCharSetEncoding() メソッドまたは rebuildSelectionList() メソッドを利用するときのみ、互換性の問題が生じます。このいずれかのメソッドを利用する PODS は、M-Business Client バージョン 6.5 で動作するために、新しいヘッダ・ファイルを使用して再コンパイルする必要があります。新しいヘッダ・ファイルは pods.zip ファイルで提供されます。このファイルは、[http://www.iAnywhere.com/developer/product\\_manuals/mbusiness\\_anywhere](http://www.iAnywhere.com/developer/product_manuals/mbusiness_anywhere) からダウンロードできます。PODS API resources... リンクを探してください。

M-Business Client バージョン	影響するメソッドがないカスタム POD	影響するメソッドがあるカスタム POD
6.2 以前	既存の POD を使用する	既存の POD を使用する
6.5	既存の POD を使用する	新しいヘッダ・ファイルを使用して POD を再コンパイルする

**[27549]** NT ドメイン統合をサポートするライセンス・キーを使用して Windows インストーラを実行する場合、[Domain List] パネルで何も入力しないで前のインストーラ・パネルに戻ることはできません。

**[27618]** NT ドメイン統合を使用している場合、[List Users for Group] ページでは、[Name] カラムにユーザのフルネームが表示されません。[User Name] カラム内のユーザのリンクをクリックして表示される [Edit User] ページでは、そのユーザのフルネームが正しく表示されます。

**[27621]** ユーザの [First Name] または [Last Name] が定義されていない場合、[List Users for Group] ページでは、[Name] カラムにユーザのフルネームが表示されません。ユーザのフルネームを表示するその他のすべてのページでは、名前のみ、姓のみ、または名前に続けてスペースと姓など、存在する情報がフィールドに表示されます。

**[27469]** Administrator Console でユーザを検索する場合に、ユーザの作成時に許可されていない文字を [User Name] フィールドに入力すると、"SoapUsers failed" エラーが発生します。

**[27470]** Administrator Console を使用してユーザを作成しようとしたときに、ライセンスで許容される最大数がそのユーザで超過する場合、"The maximum licensed number of Users (15) has been reached" という明白なエラー・メッセージに続けて、"Some fields may have been modified" および "Please verify the changes and correct any errors, then click Save to continue" という見当外れの 2 つのメッセージが表示されます。2 番目と 3 番目のメッセージは無視してください。

**[27580]** ワイヤレス同期の中で、"Updating device configuration 1 of 2" というメッセージの表示中に、15 ～ 30 秒間の一時停止が発生することがあります。ユーザが重大なエラーを疑って同期をキャンセルしない限り、同期は正常に完了します。

**[27581]** ワイヤレス同期が中断しても、M-Business Server は同期をリカバリし、再開できます。残りの同期に対して、"Connecting to server" というメッセージが表示されます。

**[27196]** 幅が 100% で、枠線、cellspacing、または cellpadding がゼロ以外の値で定義されるテーブルは、M-Business Client では画面を超えて表示され、水平方向のスクロールバーが表示されません。

**[27538]** Windows Mobile Pocket PC デバイス用の M-Business Client のオンデバイス・ヘルプには、「チャンネルの追加」と「チャンネルの削除」に関する説明が、これらの機能に対応するボタンが M-Business Client ホームページで非表示になったのに、引き続き存在します。

**[27155]** Windows Mobile 5 デバイスでは、JavaScript の実行中に M-Business Client 画面がロック・アウトされません。JavaScript コードを実行するオブジェクトを、最初の実行が完了する前にユーザが何度もタップすると、コードはタップするごとに 1 回実行されます。

**[27623]** Palm OS デバイスでワイヤレス同期が中断した場合、M-Business Server は接続をリカバリし、同期を再開できますが、"Waiting" メッセージが残ります。

**[27122]** Palm OS デバイスでは、フル・スクリーン切り替えが動作しません。フル・スクリーン・アイコンをタップしても、画面上部のタイトルとメニュー・バーが非表示になりません。

**[27432]** M-Business Client は、内部の DBCS 名を使用して SD カードにインストールされると、起動しないことがあります。SD カードのドライブ名が Internet Explorer でダブルバイト文字で表示される場合は、M-Business Client は、SD カードにインストールされると起動しません。

**M-Business Client のマルチバイトバージョンの外見上の問題。** サポートされるマルチバイト言語の M-Business Client UI には、画面上のメニュー名が正しく表示されない、正しく変換されない、またはまったく変換されないなど、いくつかの「外見上の問題」があります。

**JavaScript String オブジェクトのメソッドがマルチバイト文字で動作しない。** M-Business JavaScript エンジンでサポートされる JavaScript String オブジェクトのメソッドが、マルチバイトデータで正しく動作しません。

**[27197]** M-Business クライアント拡張 API を使用している場合、アプリケーションから要素を削除しても、その要素の参照は、API が作成したドキュメント・オブジェクト・モデル (DOM) 構造からクリアされません。

**[26881]** M-Business Server 6.5 がインストールされている Windows 2003 サーバ・マシンを再起動すると、イベント・ビューアに次の 2 つのエラーが表示されることがあります。これらのエラーは無視しても安全です。

- ◆ ASA: fatal error: can't open ODBC data source 'AGDB'
- ◆ ASA: retcode(): invalid type or handle

**[26246]** Motorola MPx220 Smartphone デバイスで、シンボル・メニュー (# キー) から入力された英数字以外の記号 (! や \$ など) が、M-Business Client 内のテキスト・フィールドに移植されません。これに対処するには、「1」キーを使用して、すべての記号のリストを循環的に表示します。

**[27023]** Windows Mobile Pocket PC 2003 が動作している Audiovox Microsoft Smartphone デバイスで、ユーザがサーバ・プロファイルを入力した初回では、入力完了時にその内容が表示されず、最初に M-Business Client を終了しないと同期できません。終了後は、サーバ・プロファイルのすべての追加と修正内容が正常に動作します。テストした Microsoft Smartphone の他のモデルではこの問題は検出されませんでした。テストしていないモデルで同じ問題が発生する可能性があります。

**[27024]** Treo 700p では、mailto: リンクが組み込みの Messaging 2.5 電子メール・アプリケーションで動作しません。ユーザがこの問題に対処するには、[Wireless Sync] アイコンを使用して、Mail 7.0.2.15 を使用する Verizon の Wireless Sync Email アプリケーションをダウンロードし、設定します。

**[26446]** Pocket PC 2003 では、アップグレード時に "agechldr.dll is locked" というメッセージが表示されることがあります。これに対処するには、クレードルからデバイスを取り外し、約 30 秒間待ち (ファイルのロックが解除されます)、[Try Again] ボタンをタップします。今度は、インストールが正常終了します。

**[26417]** Pocket PC デバイスと Windows Mobile 5 デバイスでは、アップグレード時に "Unable to remove previous version, proceed anyway?" というメッセージが表示されることがあります。ユーザが [Yes] を選択すると、インストールが続行し、クライアントが正しくアップグレードされます。

**[26468]** ActiveSync 4.x を使用する Windows Mobile 5 デバイスでは、デスクトップ・コンピュータの ActiveSync ウィンドウの [Status] カラムに、同期ステータスの更新メッセージが表示されなくなりました。このため、同期時間 (デスクトップの ActiveSync アプリケーションで [Sync] をクリックしてから、[Completed] のステータスが表示されるまでの時間) は、以前のバージョンの M-Business Client と ActiveSync に比べると、大幅に長くなったように感じます。実際の同期時間 (サーバの同期ログに示される) は変わりません。

**Windows Mobile 5 では、M-Business Client の最初の起動時にカスタム PODS に非信頼のタグが付けられるため、警告が表示される。** システム管理者がユーザ・デバイス上でのインストールや更新を行っていない場合は、ユーザが初めて M-Business Client バージョン 6.2 を起動するときに、このような「非信頼」の PODS を受け入れるように、ユーザに指示する必要があります。

**NT ドメインと統合した M-Business Server を使用していて、バージョン 6.5 へのアップグレード時にデータベースを移行する場合：** M-Business Server バージョン 6.5 をインストールしてから、AGDomainSync -a -d を実行し、データベースにデータを完全に再移植します。AGDomainSync ツールの使用の詳細については、「[AGDomainSync ツールの使用](#)」『[M-Business Anywhere 管理ガイド](#)』を参照してください。

**M-Business Server バージョン 6.5 へのアップグレード後：** 認証が必要なチャンネルにユーザがアクセスすると、以前に認証されていても、ユーザ名とパスワードの入力が要求されます。

**XML インクリメンタル同期：** データベース・スキーマを変更する場合は、デバイス上のデータがすべて正しくなるように、すべてのユーザが完全リフレッシュ同期を実行する必要があります。

**[26024]** NT ドメインを統合した M-Business Server 6.5 にアップグレードした場合、M-Business Client 5.5 または 5.7 を使用する Pocket PC ユーザが M-Business Client 6.5 にアップグレードすると、初めて同期を試みるときに "invalid login" メッセージが表示されます。ユーザは、パスワードを再入力することによって、同期を完了できます。このメッセージが表示されるのは 1 回だけです。

**[26065]** ドメインが統合された M-Business Server 6.5 の場合、ユーザが Administrator Console を使用してサーバ接続を設定すると、同期によって処理を完了しようとするときに、[Configure Connection...] ページに "invalid login" メッセージが表示されます。ユーザは、パスワードを再入力することによって、同期を完了できます。このメッセージが表示されるのは 1 回だけです。

## 以前のリリース

**Windows Mobile 5 デバイスと Microsoft Smartphone デバイスのサポート：** これらのプラットフォーム用の M-Business Client バージョンがリリースされました。

**Windows Mobile デバイスでサポートされるハードウェア・キーボード：** ハードウェア・キーボードを持つすべての Windows Mobile 5 デバイスには、M-Business Client は、ハードウェア・キーボードは有効、ソフトウェア入力パネル (SIP) は無効としてインストールされます。もちろん、ユーザは、必要に応じて入力モードを切り替え、SIP とスタイラスを使用することもできます。M-Business Client は、Windows Mobile Pocket PC デバイスである Audiovox PPC6600 と関連モデル、i-Mate PDA2k、キーボード付きの HP iPAQ モデルにも、このようにインストールされます。

**デバイス SD カードのサポート：** Microsoft OS デバイスでセキュア・デジタル (SD) メモリ・カードを使用しているユーザは、カードに、M-Business Client をインストールすることも、ダウンロードしたチャンネル・データを格納することもできるようになりました。M-Business Client をカードにインストールする場合は、チャンネル・データもそこに格納する必要があります。M-Business Client を標準のデバイス・メモリにインストールする場合、ユーザは、同期するサーバごとに、チャンネル・データを SD カードに格納するのか、または標準デバイス・メモリに格納するのかを指定できます。Palm OS 5 デバイスで SD カードを使用するユーザは、カードにチャンネル・データを格納できます。ただし、この機能は、Microsoft OS を使用するデバイスでの実装に比べて安定性に欠けます。

**最大フォント・サイズが指定可能に：** すべてのプラットフォームのユーザは、チャンネル・コンテンツの表示で、最小フォント・サイズに加えて、最大フォント・サイズを指定できるようになりました。

**旧式デバイスとの互換用に低解像度を適用：** 旧式の低解像度デバイスとの下位互換性を実現するために、チャンネル・コンテンツを低解像度デバイスでも表示できます。Microsoft OS の場合、これは、480x640 VGA 形式ではなく、240x320 QVGA 画面に相当します。Palm の場合は、320x320 形式ではなく、160x160 画面に相当します。

**Administrator Console によるライセンスの管理：** Administrator Console に、ライセンスを表示、追加、削除するメニュー・オプションが用意されました。インストール・プロセスでは常に 1 つのライセンスが追加されます。別のライセンスを追加して、たとえば、サポートされるユーザ数を増加するには、フィールドにライセンス・キーの文字列をペーストします。Administrator Console が有効期限とサポートされるユーザ数を抽出して表示します。

**Administrator Console による証明書情報の表示：** M-Business Server で証明書を使用する場合に証明書の情報を表示するメニュー・オプションが、Administrator Console に用意されました。有効期限を簡単に確認できるため、余裕を持って新しい証明書を要求できます。

**チャンネル定義内の同期開始 URL と同期終了 URL：** M-Business Server 5.7 では、SyncPref を *sync.conf* ファイルに追加することによって、同期開始 URL と同期終了 URL を設定することが可能でした。バージョン 6.0 以降では、この機能は Administrator Console UI のチャンネル定義に移動しました。詳細については、「[同期開始 URL と同期終了 URL によるチャンネル同期前後の処理の実行](#)」『[M-Business Anywhere アプリケーション・デベロッパ・ガイド](#)』を参照してください。バージョン 5.7 で同期開始 URL と同期終了 URL を使用していた場合は、Administrator Console UI

を使用して同期開始 URL と同期終了 URL を追加することによって、チャンネル定義を適切に変更してください。

**開発者がページの枠線の幅を設定できる：** 開発者が、上下左右のページ・マージンのピクセル数を指定できます。

**RIM デバイスのサポート終了：** RIM 957™ クライアントと RIM 857™ クライアントのサポートが終了しました。

**クライアントのリモート・アップグレードが無効に：** M-Business Anywhere ではこの機能は使用できなくなりました。

**日本語サポートの向上：** 日本語バージョンの M-Business Client が改善され、堅牢になりました。

**オンデバイス・データ内での拡張文字セットのサポートの改善：** M-Business XML コンジットを使用して配信されるオンデバイス・データ内で、ISO-8859-1 文字のうち、160 ～ 255 の範囲 (スウェーデン語など) が完全にサポートされるようになりました。

**オンデバイスの M-Business XML ストリーム・データのインクリメンタル同期：** M-Business XML ストリームからのオンデバイス・データを使用するアプリケーションの場合、ユーザは、バックエンド・データベース全体をダウンロードしないで、オンデバイス・データとサーバ・データの違いだけを同期できるようになりました。

**Windows Mobile 5 のサポート：** M-Business Anywhere は、SmartPhone を除き、Windows Mobile 5 オペレーティング・システムが動作しているモバイル・デバイスをサポートできるようになりました。VGA 解像度は現時点ではサポートされていません。

**マルチバイトサポートの改善：** スペースや句読点がない場合でも、アジア諸国の文字間で適切に折り返すことができるようになりました。

**Pocket PC M-Business Connect コントロール・パネルのウィザード・フォーマット：** Pocket PC OS 4.21 以降の場合、このフォーマットは、Windows Mobile 5 の横画面または正方形画面に、よりよく収まります。Pocket PC OS 4.21 より以前のバージョンでは、縦ページ・フォーマットのまま変わりません。

**Administrator Console UI：** 革新的な「ツリーベース」の表示によって、M-Business Server、ユーザ、グループ、チャンネルの管理が大きく改善され、簡単になりました。この新しい UI の実装には、新しい SOAP API が使用されています。

**同期開始と同期終了のイベント：** 開発者は、1 つのユーザ・セッションに対して、サーバ上での事前処理と事後処理を設定できます。これによって、オフラインで送信されたフォームをサーバが処理する順序を制御できます。

**バイナリ・ファイルの配置：** Windows XP デバイスや Pocket PC 2003 デバイス上にダウンロードされたバイナリが配置されるロケーションが、META タグで制御されるようになりました。

**マルチバイトサポート：** Windows バージョンの M-Business Server がマルチバイトをサポートするようになりました。このサポートには、マルチバイト HTML の表示と、マルチバイト OS マシン上でのサーバ、クライアント、デスクトップ・コンポーネントの実行があります。サポートされるデバイス・プラットフォームは、Windows XP と Pocket PC 2003 です。

**ローカライゼーション：** M-Business Client が、Windows XP と Pocket PC 2003 用に日本語、簡体字中国語、繁体字中国語にローカライズされました。

**ウィジェット内でのスクロールの最小化：** ウィジェット (Date/Time Picker、List Viewer など) は、アクティブ化するといつでも使用可能になります。表示されているページの上部に、ウィジェットの上部が表示されます。

**パスワード・ハッシュ：** [use plain text password] が設定されていても、NT ドメインとの統合では、パスワードがデバイス上でハッシュされて送信されます。したがって、クリア・テキスト・パスワードがデバイス上に格納されたり、送信されたりすることはありません。注意：NT ドメイン・パスワードは、最初はクリア・テキストで格納されますが、最初の同期後にハッシュされます。

**デバイス上のコンテンツのパスワード保護：** 管理者は、ユーザが有効なパスワードを提供した後のみ M-Business Anywhere にアクセスできるように管理できます。正しいパスワードを入力するまでユーザには「ログイン」ページが表示され、クライアント内でのそれ以外のナビゲーションは許可されません。次の場合、ユーザは、パスワードで保護されるサーバ上でパスワードの入力を要求されます。

- ◆ パスワードで保護されるサーバ上にあるアプリケーションが起動する場合。
- ◆ ユーザが、パスワードで保護されるサーバに切り替える場合。
- ◆ モデムまたはクレードルによる同期の後。

**サーバのキャッシュ：** M-Business Server には 3 つのキャッシュ・オプションがあります。この設定によって、IT 担当者は、さまざまなプラットフォーム、アプリケーション・プロファイル、コンテンツ・タイプのキャッシュを最適化できます。この機能は、サーバが同時にサポートできる同期数を増大させ、全体のパフォーマンスを改善します。オプションは、ディレクトリベースのキャッシュ、ファイルベースのキャッシュ、メモリベースのキャッシュです。メモリベースのキャッシュは、Windows 上のデフォルト・オプションとして用意されています。ファイルベースのキャッシュは、Unix プラットフォーム上のデフォルト・オプションとして用意されています。

**メモリベース：** キャッシュは RAM に格納されます。このキャッシュ・オプションは、コンテンツの量が少ない場合、ページがパーソナライズされていない場合、またはページが比較的静的な場合に、Windows プラットフォーム上で使用する事を推奨します。メモリベースのキャッシュは、サーバが再起動された場合には必ず再作成されます。

**ディレクトリベース：** フォルダ内の多数の小さなファイルがディスク上に格納されます。このキャッシュ・オプションは、ユーザあたりの HTML データ量が多い場合、またはページがパーソナライズされている場合に、Windows プラットフォーム上で使用する事を推奨します。

**ファイルベース：** 1 つの大きなキャッシュ・ファイルが使用されます。このキャッシュ・オプションは Unix プラットフォーム上で使用します。

**SOAP API：** 開発者は、Administrator Console UI を使用して実行できる M-Business Server 機能を、プログラムを使用して実行できるようになりました。サード・パーティは、この機能を使用して、M-Business Anywhere を OEM したり完全なカスタム・インタフェースに埋め込んだりすることができます。

**SOAP API と Java：** Java で SOAP クライアントを作成している開発者は、C ベースの暗号化ライブラリを呼び出すために JNI を使用する必要はありません。

**SOAP シングル・サインオン：** 管理者は、複数のサーバにアクセスするユーザに対してシングル・サインオンを設定できるようになりました。この機能は、base64 エンコードのユーザ・パスワードを X-AvantGo-UserPassword HTTP ヘッダに入れて、カンマ区切りリストで指定されたホストとポートに送信します。

**同期専用チャンネル：** M-Business Administrator Console UI チャンネル作成ページに、[Sync Only] チェックボックスが新しく追加されました。デバイス上でページの有効期限が切れることがないため、チャンネルが自動的にオンラインにならないと判断された場合に、管理者はこのチェックボックスをオンにします。ただし、ドキュメントが正しくフェッチされるように、サーバではそのキャッシュ内のドキュメントに適当な有効期限を設定しています。

**XML インクリメンタル同期：** 開発者は、前回の同期以降の変更のみをバックエンドから要求し、その修正のみをデバイスに送信できるようになりました。この機能によってネットワーク・トラフィックと同期時間が最小化され、パフォーマンスが向上します。

**SSL 上での安全な XML 同期のサポート。**

**HTTPS による安全な開始 URL と終了イベント URL のサポート。**

**クライアント - ActiveSync 4.0 のサポート。**

**クライアント - VersaMail 3.0 デフォルト・メール・アプリケーションがサポートされるようになりました。**

**オンライン・モードでフォーム要求を送信するときに使用される、M-Business Client の "Fire and Forget" 機能。JavaScript API を使用してクライアントによってネイティブに実装される。** この機能は、オンライン・モードでフォームの送信を試み、時間切れや通信エラーなどによって要求が失敗すると、クライアントがオフライン・モードであるかのように要求がフォームマネージャに置かれます。次にクライアントがオンラインになり、オンラインでのフォーム送信を試みると、フォームマネージャ内の保留中のフォームが、現在のフォームと一緒にサーバに送信されます。

標準の完全同期は、現在と同様の方法で引き続き動作し、起動されると、キューイングされている要求に対応するリトライ方式を上書きします。エラーは、同期エラーの現在の処理方法と同じ方法で処理されます。接続関連のエラーがない場合は、同期はその標準的な処理を続行します。この機能を実装するために、次に示す新しい2つのクライアント側設定が使用されています。

◆ **SaveSubmissionOnOnlineError**

この設定値はブール値であり、デフォルト値は false です。true に設定すると、フォームのオンライン送信時に接続エラーが発生した場合に、送信がオフラインのフォーム送信と同じようにフォームマネージャに保存されます。

◆ **FlushSubmissionsOnline**

この設定値はブール値であり、デフォルト値は false です。値を true に設定すると、保留中のすべてのフォーム送信がオンライン要求時に送信されます。

**動作しないサンプル・チャンネル・ハイパーリンクが削除されました。**

**このリリースには、『M-Business Anywhere 管理ガイド』の最新版が含まれています。**

## テクニカル・サポート、お問い合わせ先

アイエニウェア・ソリューションズでは製品の不具合への対応をするために、サポートプログラムを提供しています。サポートプログラムの詳細については、次のホームページを参照して下さい。 <http://www.ianywhere.jp/sup/index.html>

---